

受講生からこうした反応が得られるように



受講生が刺戟を与えている。受講生がこうした反応が得られるように

けやき会 寄附講座 受講生が100人越え

けやき会の寄附講座「経済事情 グローバル時代のキャリア形成」を開講してから6年目を迎え、2018年の受講生は121人と最高を更新した。59人の教養学部生をはじめ、経済学

なつた、寄附講座が開講されたのは、2013年のことである。当初の受講生は10人ほどだったが、年々増加傾向をたどり、2017年には100人近くになった。18年はさらにその数を上回った。学年も卒業を控えた4年生から入学したばかりの1年生まで多岐にわたる。近年は、特に1、2年生の受講が目立つ。従来の授業内容とは趣を異にし、多様な実践を踏まえた「生きた講義」だけに、学生たちからの手応えも、次の反応のように十分である。

「私はまだ異文化に触れた機会は少ないが、これからの大学生活で積極的に多文化、異文化への理解をさらに深めていきたい」「社会に出る前に今回の講義を受けることが出来、本当に良かったと感じています。今回講義で学んだ内容を踏まえ、一層広い視野を持ち、積極的に学んでいこうと思っ

一方、解決すべき課題もある。受講生が増え続ける半面、本来目指している「双方向性」の授業は決して容易ではないことである。やや受け身になりがちな受



懇親会で挨拶する 榎本新会長

NEWS あっちこっち いっしょにユースを 集めました。

榎本前会長 全学同窓会会長に 就任!

昨年8月4日、平成30年度埼玉大学同窓会代議員総会が開催され、今までのけやき会の会長を務められた榎木誠氏が、全学同窓会の会長に就任されました。

1949年に創立した埼玉大学は、本年2019年に創立70周年を迎えました。その記念事業として、70周年記念のキャッチフレーズである「つなげよう未来へ」をテーマに、公開講座・シンポジウム、記念式典の実施、インターナショナル・レジデンスの整備、70周年記念出版等が行われます。



この他、教養学部からは、副会長に岡田道程氏、理事に関根増男氏、幹事に武井尚氏が就任、全学の同窓会活動を推進していきます。

- 11月：工学部オープンラボ
11月：創立70周年記念シンポジウム・式典・祝賀会
12月：第20回音楽の贈りもの
12月：彩の国女性研究者ネットワークシンポジウム
※事業の詳細は、埼玉大学ホームページをご参照ください。



同窓生から 広く各地で活躍する 同窓生からのレポート！

高橋 康夫 (69年卒・国際関係)

埼玉大学空手部を1969年の春に卒業して日本で半年間ほど新入社員としてサラリーマン生活をしていたときに、空手部OB会の青雲会から「埼玉大の空手をヨーロッパに教え広めに行かないか」とのお誘い(指令)があつてオランダに赴くことになった。

2、3年で日本に帰れるかなと思つて至極簡単に引き受けたのだが、行き先のオランダがどこにあるかをよくに確かめもせずに出かけたので、あとで自分が思つていた地理上のオランダは実はデンマークのことだつたと判つてびっくり、笑つてしまつた。大卒の初任給が3万円に



成るかならぬかの時分に羽田飛行場から阿姆斯特ダムまでの飛行機代は40万円ほどしたので青雲会の先輩方には多大な援助をしていただくことになった。無事に阿姆斯特ダムに着いてからは、日中はオランダの会社(王立ダイアモンド研磨工場(Sonny社))に勤めて生活費を稼ぎ、夜はほぼ毎晩空手をやりに首都アムステルダムの中央警察署や他の都市の街道場へと出向いた。Costarダイアモンド社は1800年代創立の工場で、それまでは家内工業であつたのを蒸気エンジンを利用して大工場として隆盛し、日本からは文久年間の徳川幕府の遣欧使節団がアムステルダムに滞在中、使節団の通訳として同行していた福沢諭吉が同社

を見学に訪れている。23歳の若造が英語ですらろくに喋れぬ身でオランダ人(今の平均身長184センチ)に空手を教えるのは楽ではなかつた。そうして当初の2年間のつもりがあつたという間に50年過ぎ去つた。この間の苦労話のようなものも少しはあるのだけれどもまだ現役だから止めます。今は定年退職で会社勤めも終え、夜に空手をやるだけの生活になつたので従来よりは時間的には楽になつたのだが、今度は老齢の体調維持に気を使わねばならなくなつてきている。いつまで体が動くのかそれはそれで楽しみでもあるのだけれど、馬鹿は死ななきやならぬという浪花節のとおり私は今も空手をやっているの



さて 来年2020年はご存知のように2度目の東京オリンピックの年である。1度目はとうよりアジアで初めてのオリンピックは54年前の1964年。この時まだ田舎(銚子高校)の高校生だった私はどういうわけか開会式に招待されて天皇陛下のお言葉を玉音を直かにお聞きして感激した。各国選手団の入場行進では日本人は整然とした行進であつたのに比して、欧米選手はだらだら歩きで、その違いに唾然としたことを思い出す。柔道がこの年のオリンピックの競技種目に採用された。そしてこれはおめでたいこと、良かったと思つていたら日本文化としての武道たる柔道は今や技を競うスポー

ツとしてのジュードに変わ容している。これを良とするか否か。日本の空手が世界のカラテになるにどう変わるのか、私はここを注視して行こうと思つている。 「あ！明日英語の試験だ。待てよ？教科書持っていないぞ。うわわ！考えてみたら、授業1回も出てないよ。語学は1・2限だから、いつも寝坊してそのうち面倒くさくなつちやつたんだよなあ・・・。ヤバイ。どうしよう！！！」 「・・・という夢を卒業後に何度見たことか。そんな後ろめたい気持ちをつつまで



高橋 大輔 (84年卒・現代社会)

35年を振り返って

「あ！明日英語の試験だ。待てよ？教科書持っていないぞ。うわわ！考えてみたら、授業1回も出てないよ。語学は1・2限だから、いつも寝坊してそのうち面倒くさくなつちやつたんだよなあ・・・。ヤバイ。どうしよう！！！」 「・・・という夢を卒業後に何度見たことか。そんな後ろめたい気持ちをつつまで

また、部活で知り合った仲間、困ったときに助け合いの出来る仲間であり、その点でも知り合って良かったと思います。例えば、私

たと思います。また、部活で知り合った仲間、困ったときに助け合いの出来る仲間であり、その点でも知り合って良かったと思います。例えば、私

私は体力に自信が無く、運動も苦手なため運動部に入っても続けられるかどうか不安でした。しかし、先輩方が丁寧に教えて下さったため、上達していくことが出来ました。少林寺拳法部に入ること、他ではできない独自の経験ができたと思います。また、得られたものも多いです。今回は、私が少林寺拳法部に入ることと得られたものについて書きます。

して他に、忍耐力が挙げられます。私が少林寺拳法部に入



が去年受けた初段の審査では、仲間たちの助け無しでは合格出来なかったと思います。私は、初段の審査の数週間前から体調を崩してしまい、審査の直前の練習に参加することができませんでした。私が練習に参加できないときでも気遣いの連絡をしてくれたり、審査中に私が焦って技を間違えそうになったときも、落ちてくような声をかけたりしてくれるなど、大きな心の支えとなってくれました。少林寺拳法部に入部したことと私が得られたものと

世の中に住みたいですか？」と聞かれたら、私はこう答える。「人間の尊厳が重んじられ、格差の少ない共生社会」大儲けできなくてもいいから、すべての人が戦争・迫害・差別・貧困から解放され、普通に働くことができ、そのことで安全で健康的な生活が保障されるような世の中であってほしい。しかしながら今の日本はその逆方向に向かっていくように感じる。



山本太郎氏（参議院議員）と

保障法案が国会で強行採決された事件。それまで憲法違反とされてきた集団的自衛権の行使が、突然一部容認されるといって、安全保障政策の大きな転換点。この時、国会を10万人の市民が包囲したことは記憶に新しい。

お隣の韓国では「キャンドル革命」が起き、大統領が退陣に追い込まれた。フランスでは「黄色いベスト」がデモ行動を繰り返して、マクロン政権は窮地に立たされている。日本では彼の地と同じかそれ以上に社会が矛盾を抱えているというのに、無関心な人が多い。おとなしすぎるのである。2015年9月から3年半たった今、国会前にはあの時ほど人が集まることはない。忘れっぽいのである。もちろん、暴力的な行動は慎まなければならないが、選挙で一票投じる以外にも声を上げる方法はいくらでもある。デモ・集会のみならず、

に加わるようになった。日本ではなぜか「政治の話はタブー」という空気が支配的である。それは多分、小学校の時から「先生の言うことを聞く」ことが重要視され、「自分の考えを持ち、他人と議論する」という教育を受けて来なかったからではないか？政治の話をするのが楽しい場の空気が壊れる、人間関係にひびが入る。だから「政治の話はダメ」と、勝手に恐れているのではないか？



そんなわけで、定年まで2年半となった2018年10月に再び東京転勤となった後も、新しい地元で活動を続けています。「政治の話はタブー」という空気を乗り越え、微力ながら「人間の尊厳が重んじられ、格差の少ない共生社会」に少しでも近づけるように。



山田正彦氏（元農水大臣）と

応援したい政治家の事務所での作業とか、ポストイングとか・・・私たちの生活と密接につながる法律も、税金の集め方・使い方も、年金のこともすべて「政治」が決める。政治に無関心であることはできて無関係であることはできないのである。

通じて忍耐力を得られたと思う場面の一つに、技の修練が挙げられます。級が上がるにつれて難しい技が増え、数回の挑戦だけでは上手いかなんかが多くなりました。その時も、試行錯誤を重ねて出来るようになるまで繰り返しました。一度の挑戦で諦めず、出来るようになるまで繰り返す、という忍耐力を身につけたと思います。また、部活内での人間関係を通じて、忍耐力を身につけることができたと思います。少林寺拳法部では、学年が上がると部活内でも責任のある、幹部の役割に就くこととなります。幹部になると、部活の方針を決めるための話し合いの場が定期的な設けられます。話し合いで、自分の意見が通らないこともあり、その時でも全体の利益を考慮して我慢することができました。さらに、必要な時には周囲の反対を恐れず自分の意見を通し、結果として周囲との関係が悪くなっても、それに耐えて部活の仲間と接することができました。私が少林寺拳法部に入る



ことで得られたものの中で、一番大きなものは自信です。三年間部活動を続けて、黒帯を取ることができたのは、私にとって大きな自信となりました。少林寺拳法部に入る前は、運動が苦手な運動部に入っていた経験も無いため、初段になるまで続けることができたか不安でした。しかし、辛いことがあっても仲間の助けや、自身の忍耐力で乗り越えることができ、私も何かを継続することで成果を上げることができると、この自信が、今後の人生においても、多少の辛いことは、周囲の助けと少林寺拳法部で培われた忍耐力をもってすれば乗り越えられる、という自信にも繋がっています。

海外で仕事をし

赤津 光一 (70年卒・独文)



埼玉大学を卒業して貿易振興関係の政府機関(ジェットロ)に就職した。そこで最初は日本の輸出促進のため、また後に輸入促進、さらには投資促進などに関わる仕事を色々やってきた。貿易であるので当然外国との関わりが多い。国内での仕事でも海外から人を受け入れ一緒に仕事をすることもあった。例えば、今、外国からのワインの輸入が大きく増えているが私がジェットロに入ったばかりの頃、チリからのワインの輸入を拡大するための仕事を担当した。当時、チリからのワインはバルクで輸入され、国産のメルシャンやサントリーのワインにまぜられて国産ワ

インとして売られていた。チリのワインの輸入については今ではボトルでの輸入が普通であり、新世界ワインとして大きく増えている。昔仕事をすることが少しは役に立ったのなら幸いです。

海外でも仕事をすることがあった。最初はドイツで1986年から1990年までの4年間、北ドイツのハンブルクに駐在して日本の中小企業支援のため、ドイツ各地で開催される大きな見本市に日本の中小企業や地方自治体を取りまとめ日本ブースの出展責任者として4年間で25回の見本市参加をオーガナイズした。赴任前年の1985年に開催された先進5か国蔵相会議のプラザ合意による急激な円高で中小企業の対米輸出が難しくなり、ジェットロの見本市事業もその影響を受け、米国の見本市参加は、全部ドイツに振り向けられた。そのため前任者の2倍の仕事をする事になり、夜10時、11時までオフィスで仕事をすることも多かった。しかし、日本より早く週末2日になつていたことや、

2019年けやき会総会 記念講演会 風水思想と日本 2019年6月29日(土) PM2:00~ 埼玉大学 大学会館講堂 風水思想は7世紀に百済から日本にもたらされました。以来、藤原京、平城京、平安京などの古代都市建設のための環境アセスメントの知識として用いられ、また社寺・邸宅建設のためのアセスメントや見立ての判断にも用いられました。本講演では、風水思想がどのように用いられ、こんにちの日本の景観を形作ってきたのかについて解説します。 講演：渡邊欣雄氏 (東京都立大学名誉教授・69年教養学部文化人類学コース卒)

農に生かす

齊藤 政雄

(69年入学・日本文化)

「おはよう！」と登校する小学生が、畑で収穫中の私に声を掛けていく。早朝に野菜を収穫し、「直売所」に出荷する。日中に畝作り、種まき、植え付け、草取り、そして害虫つぶしなどの作業が続く。夕方、小学生が道草をしながら帰ってくる。「おじさん、何作っているの」と尋ねてくることもある。



ここ八ヶ岳南麓の長野県富士見町に移り住んで、2年になる。縄文時代には、後に、「縄文銀座」と名付けられるほど人口が多かった。そして、小さいころからサッカーが好きで、さいたま市に通い続けていてとても大好きな街であったことと、政令指定都市という大都市で、さらにオリンピック・パラリンピックの開催などで大きく街が変わっていきたくてという気持ちがあったことから、さいたま市を選びました。

この就職先を決めるとき、とても悩んだことは地元に戻るか否かでした。私の地元は他県にあり、親からも昔は、公務員になるなら故郷に貢献するのが常識だろうと言われたこともありました。最初は、親の言うとおりにするべきだと考えました。しかし、大学2年の時、留学をする機会をいただき、そこでたくさんの友人と出会いました。その友人たちは、自分で何をするべきかしっかり決めていく人がほとんどで、自分自身もそのように生きていきました。また、3年の後期に埼玉

は、富士山や南アルプス、八ヶ岳連峰に囲まれ、湧き水がおいしい、自然豊かな田園地域である。

定年後、千葉県内で農業をしている娘の手伝いをしている時に、野菜作りの大変さと面白さを知ったことが、農業を始めるきっかけである。現在、年間約100種類の野菜を出荷している。繁忙期は、ほぼ休みがないが、太陽と土そして微生物の力を活かして野菜を育てることは、心身ともに豊かにしてくれるように思う。悩みは、アブラムシなどの虫害による減収、そして、野菜の価格の安さである。種子や肥料、資材、機械などの諸費用を考えると、人件費はゼロ査定となる。「年金で何とか生活している」のが、実態である。

このため、農家の後継者不足は深刻で、高齢者が何とか頑張っているうちにいいが、それでもできなくなると、耕作放棄地となるところが増えている。一方で、変化も出てきている。定年後に、東京方面に居住しながら週末にこちらで農業を始める人や、都会での会社勤めに疑問を抱

いた若者が、こちらで新規就農する事例も増えている。また、農業放棄地を集めて大規模な農業を手掛ける企業も進出してきている。しかし、農業の行く末は、扱いき手の確保問題を含め、明るい展望が見えてきているわけではない。

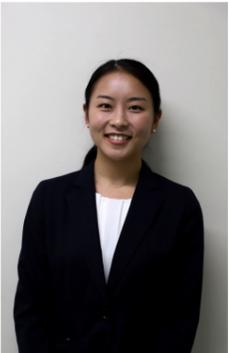


さて、「人生百年時代」と言われる。定年後の30年から40年をどう生きるかが問われているが、私は、「農に生きる」ことにした。お天道様と土を相手に、野菜を育てるのが農業だと思いが、すべて自己責任とい

学生生活と就職活動体験

齋藤 紅葉

現代社会専修課程
フィールド科学専攻4年



私は入学時より、自身の大学生活を充実した特別なものにしたという思いがありました。その中でも、部活動と海外留学は必ず挑戦すると決めていました。部活動では、小学生のころから続けているバスケットボールに励みました。また、海外留学は、交換留学制度を利用して1年間アメリカで学びました。

これらはどちらも私の学生生活を充実したものにさせましたが、最も私の学生生活を特別なものにしたのは、入学時の私が想像もしていなかった途上国インターンシップでした。入学後、国際開発を学ぶ学内のGlobal Youthプログラム（以下GYプログラム）

うところがいい。もちろん、周りの篤農家の方などに教えていただくが、それをやるかやらないかは自分の判断である。

最近、農に生きる人が増えてきているように思う。一例であるが、多摩地区の10人ほどの人たちが、長野県で後継者のいない果樹園を引き継ぎ、再生の取り組みを始めたそうだ。交通機関や通信手段が発達したことを活かして、交替で作業をしているとのこと。各人の持つ経験と知識、技術を活かして、取り組まれていると聞く。

残りの人生とか、第二の人生とかではなく、若いころの志を思い起こし、自分が納得のいく人生を追求する時期ととらえたい。



現役生から
在学中の後輩からの
ホットな報告!

公務員試験を終えて

荒井 紫穂

ヨーロッパ・アメリカ文化専修課程
ヨーロッパ文化専攻4年



私は今年、大学4年生になり、就職活動として、公務員になりたいという夢から公務員試験を受験しました。そして無事にさいたま市役所から内定をいただくことができました。

私が公務員を目指した理由は、小さいころから地域について考えることが好きで、できるだけたくさん人の生活を支える仕事になりたいという思いが強かったからです。公務員の中でも

に興味を持ち、参加することになりました。GYプログラムの必修プロジェクトの一つに開発途上国での一定期間のインターンシップというのがあります。留学を終え、就職活動を控えた当時の私は、観光開発に興味があり、インド・シッキム州のNGOにて1か月の観光開発インターンシップを行いました。日本人のいない地で、一人で活動をするというのは、私の学生生活での最大の挑戦であり、主体的に行動をすることや、異なる社会の中でコミュニケーションをとることを学びました。

部活動、留学、そして途上国インターンシップなどに挑戦したことは、就職活動で自身を表現するのに良い経験となりました。当初は、私が興味があった観光業界と航空業界を中心に就職活動を行っていましたが、埼玉大学の繋がりを活かしたり、業界の視野を広げたりしてみようと考えようになり、学内で行われた企業説明会に参加しました。

その学内説明会で、現在私が内定を頂いている清水建設と出会いました。説明

会には、埼玉大のOB・OGの方々が来てくださっていて、その後、入社試験を受けるにあたって、何度も時間を作ってアドバイスをくださったり、面接練習をしてくださったりしました。建設業に関する知識から自己表現のコツまでご指南いただき、内定を頂いてからも多くのサポートをしてくださりました。こうしたご支援を頂いて、目標となる先輩方がいるということはとても幸せなことであると感じています。

こうした恵まれた環境の中で就職活動ができ、進路が無事に決まったのも、埼玉大で学んでこられたからであると考えています。埼玉大生としての誇りを持って、さらに、社会人になってからも挑戦することを忘れずに生活していこうと思っています。

